

令和4年度岡山市海洋プラスチックごみ対策アクションプランの運用に係る推進会議（第1回）

結果報告

- 1 日時 令和4年8月31日（水）13時30分～17時00分
- 2 場所 岡山市勤労者福祉センター 5階 第3会議室
- 3 出席者 18名
有識者 赤井委員、磯部委員、木山委員、黒崎委員、田中委員、平井委員
藤原委員、山田委員（欠席：菊竹委員、利根委員）
岡山市 環境事業課長（代表者）
環境事業課3名、環境保全課1名、農林水産課1名、SDGs・ESD推進課1名
道路港湾管理課1名、下水道河川計画課1名、生活安全課1名、生涯学習課1名
オブザーバー
岡山県環境文化部循環型社会推進課長
日本財団香川事務所長
事務局 公益財団法人岡山県環境保全事業団環境学習センター「アスエコ」

4 内容

- (1) ワークショップの背景と前提共有、役割理解
- (2) 岡山市海洋プラスチックごみ対策アクションプランの概要説明（岡山市）
- (3) 現在の岡山市の取り組み状況の確認（市の施策について）：ワーク1
- (4) アクションプランや施策に対するアイデア出し：ワーク2
- (5) 今後の流れ

※ワークショップは以下の2グループに分かれて実施

A チーム構成員

- 有識者 磯部委員、黒崎委員、田中委員、藤原委員、山田委員
岡山市 環境事業課：職員2名
SDGs・ESD推進課：職員1名
下水道河川計画課：職員1名
生涯学習課：職員1名

B チーム構成員

- 有識者 赤井委員、木山委員、平井委員
岡山市 環境事業課：職員1名
環境保全課：職員1名
農林水産課：職員1名
道路港湾管理課：職員1名
生活安全課：職員1名

5 結果

(1) 現在の岡山市の取り組み状況の確認（市の施策について）

事前に岡山市担当部局より提出された「岡山市の海洋プラスチックごみ対策に関する取り組み（施策）」について、グループ毎に「取組状況の確認（以下◎、○、△で評価）」と「プランに該当するのに記載が漏れているものについて協議」を実施した。出てきた意見を付箋（黄色）に記載し一覧表（模造紙）に貼付して取りまとめた（アクション13からアクション18については取組状況の確認が出来ず次回実施することとした）。

推進会議（ワークショップ）終了後、「現在の岡山市の取り組み状況の確認（市の施策について）」について別紙1のとおり取りまとめを行った。

- ◎ 十分できていて、今の内容で継続して取り組むべきもの
- 充実してきているが、もう少し良く出来る余地がある
- △ 実施規模など影響や効果に改善の余地がある

なお、別チームの内容についてはワールドカフェ形式で共有した。その時に出た別チームからの意見や質問は以下の通り。

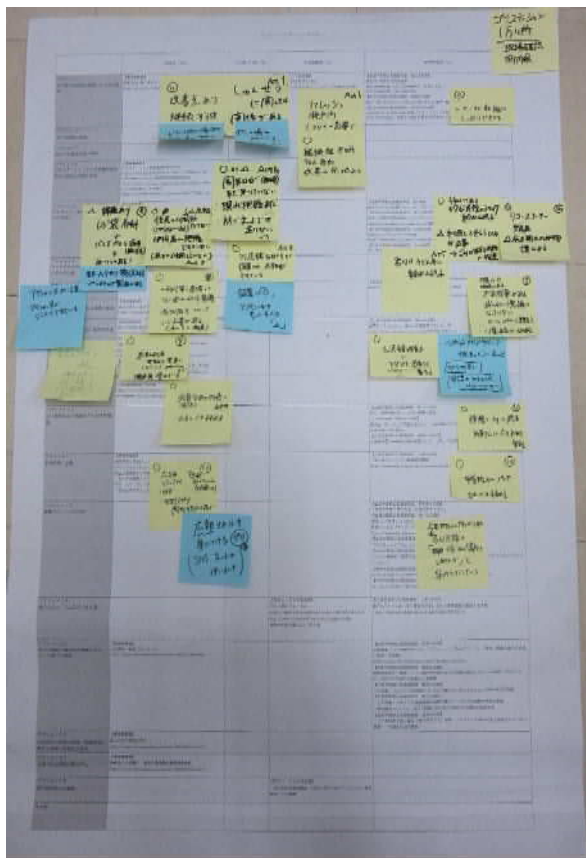
(A チームに対する B チームの意見や質問)

- ① アクション1では「海ごみの削減に関する啓発・教育活動につなげる」ことが大切なので、環境事業課の「百間川河川敷一斉ボランティア清掃」だけでは海ごみがどこにあるか等が市民に伝わっていないため△であるという意見があった。
- ② アクション1の下水道河川局の施策で「浚渫事業に関しては関係があるかもしれない」という意見に対し、「ポンプ場の除塵機にプラごみがある」という意見があった。
- ③ アクション1の環境事業課の「レジ袋有料化」に対し、「バイオプラスチックで作られたレジ袋など、まだ無理やり提供されるプラスチック製品がある」という意見があった。
- ④ アクション6の環境事業課の「ペットボトル回収機を設置」に対し、「設置はよいがアプローチをもっとすべきなので△である」という意見があった。
- ⑤ アクション8の環境事業課の「岡山市美しいまちづくりの日一斉ボランティア清掃」に対し、「アクション9がしっかりできているのでアクション8は必要ない」という意見があった。
- ⑥ アクション9の「生涯学習課公民館振興室 操山公民館」の活動において「公民館活動がアダプト活動と重なっていることが多い」というAチームの意見に対し、「アダプト活動は地域エリアフリーで機動的に動けるのでよい。申請もやることもわかりやすい」という意見があった。
- ⑦ アクション9の環境事業課の普及啓発・広報において「広報は様々な媒体で行っている。分別アプリの周知をもっとしたい。」という意見に対し、「広報スキル（SNS、ネット等の使い分け）を身につけたプロが必要」という意見があった。

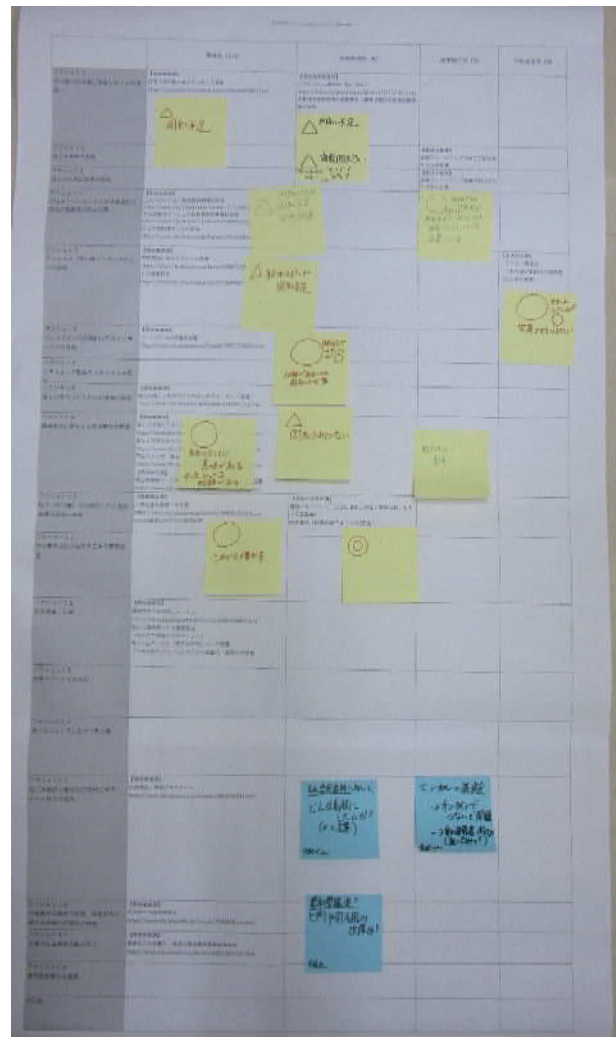
(Bチームに対するAチームの意見や質問)

- ① アクション5の生活安全課のエシカル消費に関する講演会や出前講座に対し「誰に呼びかけるかが大切(情報を必要としている人に届いているかどうか)」という意見があった。
- ② アクション10の環境事業課の「≪美化啓発看板≫を設置」に対し、「どのような看板(どんな言葉)にしたのか」という質問があった。
- ③ その他、農林水産課に対し、「海ごみ対策を目的とした樋門や用水路の改修はあるか。農村整備課が行うのか」という質問があった。

Aチーム



Bチーム



(2) アクションプランや施策に対するアイデア出し

事前に有識者から提出してもらった「アクションプランや施策に対するアイデア」を事務局で整理した。そのアイデアに対し、グループ毎に話し合い、別紙2のとおり内容を整理した(検討ができなかったものについては赤字で記載)。

推進会議(ワークショップ)終了後、別チームのアイデアの共有及び意見集約を行った。

追加で提出された意見は以下の通り。

(平井委員より A チームのアイデアに対する意見)

- ① 「ホットスポットマップの作成及び公開」
 - 調査方法も含めて公開するのが良い
 - 市民に清掃に参加してもらうのは町内会を活用
 - マップへの落とし込み、HP 公開はクリーンアップおかやまを活用し、ホットスポット版の報告フォームにバージョンアップする
- ② 「不法投棄対策やポイ捨て対策等の看板を一新する」
 - 看板については、大切なのは中身。
 - 看板について一般公募とすること、市民への PR 効果も期待できる
- ③ 「川ゴミ回収の時期検討」
 - 1 1 月~3 月に集中して行い、他の時期は草がない場所を行うのは良いアイデア
 - 草刈+清掃をセットにする場合の課題は、刈った草の処理だと思われる
- ④ 「ごみ回収のための責任・支援体制構築」
 - 当面はオーシャンズ X の基金を活用して、そこから予算化していく方法もある
- ⑤ 「市民や中高生による川ゴミ調査と発表会」
 - たとえば、操南中の取り組みとして学区内の活動などは良い事例（今年度は、清掃と発生抑制を町内会と連携して行った）
 - 文化祭も活用できる
 - おかやま環境教育ミーティングのような内容で、川ゴミ、海ごみをテーマにしたものを開催してもよいのではないか
- ⑥ 「アクションプラン概要版の作成」
 - 出前授業など参観日と一緒にすることで家庭を巻き込んだ啓発も可能

(赤井委員より)

- 使用者責任だけでなく、「売った側の責任」についてもアクションを考えていきたい。例えば、すべての商品にマイクロチップをつけてごみ箱に回収されない場合をカウントし、処分費用を負担してもらうなど。
- ごみの講座も何度もやっているが、来るのはきちんと捨てている人。この講座をうけないと有料ごみ袋を買えないという施策なども考えられてはどうか。

その他の委員からは追加で提出された意見はありませんでした。